

平成 28 年 5 月
那覇自然環境事務所

第 1 回 推薦書案ブラッシュアップ打合せ概要

日時：平成 28 年 4 月 23 日（土）13:30-18:00、4 月 24 日（日）9:00-12:00

場所：那覇第 1 地方合同庁舎 大会議室

参加委員：土屋先生、米田先生、太田先生、久保田先生、星野先生、横田先生

打合せの主な内容は以下のとおり。

1. 推薦書の再構成について、以下の方向性で概ね了
 - ・世界遺産の価値説明に係る要点を押さえた構成とする。
 - ・このため、第 2 章の種毎の詳細な記述部分は、遺産の価値説明に最適な数種に絞る。これ以外の種の記述は、推薦書本体から削除して附属資料（「固有種／亜種の事例（仮）」「動物種基本情報・生息情報・保全情報（仮）」等）として別立てする。
 - ・第 4 章についても同様に、遺産の価値説明をもとに修正する（未着手）。
2. クライテリア(ix)、(x)の内容について、以下の方向性で概ね了
 - ・クライテリア(ix)は大陸島としての地史を反映した独特な生物進化の過程をメインとする。
 - ・クライテリア(x)は、EDGE 解析等による既登録地との比較も試行し、追記を検討する。更に、この地域の種が多様化している背景の説明に、他のプロセス（海流分散、鳥分散、風分散、氷期の気候変動、浸透交雑、地質との対応等（要精査））を含めることとする。
3. 推薦書で取り上げる種について、以下の方向性で引き続き作業（次回に持ち越し）
 - ・①中琉球の固有（遺存固有）、②南琉球の固有（隣接地に近縁種：新固有）、③琉球列島（中・南琉球）の中で島毎に分化（新固有）を説明するための種を抽出する。
 - ・アマミノクロウサギ、ヤンバルクイナ、イリオモテヤマネコの 3 種については、地域を代表する固有種であり、(ix)でも(x)でも、何らかの形で触れておくことが望ましく、更に情報収集する。
4. その他、今後の作業にかかる発言
 - ・島嶼群の名称は自然科学系の文献で用いられる用語をベースに統一すること。
 - ・推薦書の作り方として、科学的根拠が明確であること、簡潔で分かりやすいこと。
 - ・そのためには、図表、ポンチ絵を多用すること（世界遺産委員会の審査に向けては、ビジュアルでの端的で判りやすい説明が鍵になる）。
 - ・やんばる地域の森林伐採については、過去に海外に発信されていることから、持続可能な林業へ転換するとしても、IUCN への説明ぶりは慎重を期すべき。

※ 生態学サイドからの説明を用意すべき。

以上